



㊦ しっかりかんがえ ㊦ もいやりのある ㊦ みんななかよし 潮見っ子

光る海 14号



令和5年7月13日
校長 惣田 正宏



ホームページ

いよいよあと1週間。ラストスパートです！

先週から今週初めにかけて、北部九州はさらに、記録的な大雨に見舞われました。被害のニュースが流れるたびに胸が痛みました。線状降水帯が少しでもずれば…、とても他人ごとではありません。子供たちの命を守るためにはどのような備えが必要なのか、いざという時に実践できるように考えていきたいと思います。一方、今週末には梅雨明けするのではとの予想も出ています。子供たちが育てているひまわりやアサガオ等の植物も大きく育ち、きれいな花を咲かせています。火曜日には、県下に熱中症警戒アラートが発出されています。これからが夏本番です。夏休みまで1週間余り、暑さ対策を万全に、元気にラストスパートです。



全校読み聞かせ 7月10日

10日朝の時間に体育館で全校読み聞かせを「フォーキッズ」さんのご協力で実施しました。1学期最後の読み聞かせです。夏休みを前にして、わくわく楽しみになるような絵本「なつのおとずれ」など2冊の読み聞かせがありました。特に「なつのおとずれ」は、挿絵が思わずクスリと笑いたくなるような陽気なもので、子供たちは物語に引き寄せられていました。子供たちの大好きな読み聞かせ、2学期もよろしくお願ひいたします。



【7・8・9月の主な行事予定】

【7月】

21日(金) 1学期終業式 大掃除
※7月22日～8月28日 夏休み
※7月25・26日午前 水泳教室
※7月25日～28日 保護者面談



【8月】

8月 9日(水) 全校登校日(県民祈りの日)
8月29日(火) 2学期始業式
※8月30日～9月1日の3日間
短縮授業(全校4校時・給食あり・14時下校)

【9月】

5日(火)～8日(金) 校内夏休み作品展
6日(水) 国道植栽種まき(5年)
6日(水) 委員会活動
7日(木) 1・3・5年 授業参観・懇談会
8日(金) 2・4・6年・3組授業参観・懇談会
(4組は各学年で実施します)

15日(金)～18日(月)
佐世保市夏休み作品展

18日(月) 敬老の日 23日(月) 秋分の日
27日(水) クラブ活動

※この他、身体測定・視力検査、4校合同清掃(6年)・工場見学(3年)等が入ってくる予定です。



夏休みの学習ドリルについて 7月3日

いよいよ22日から夏休みに突入します。新たな3学期制で短くなったとはいえ、38日間の夏休みです。毎日1時間程度の学習と、併せて夏休みにしかできないこと(感想文・感想画・工作・習字・自由研究等)に、計画的に取り組んでももらいたいと思っています。

ご存じのとおり、「夏休みの友」は、夏休みの過ごし方の情報ガイドブックに変わり、さらに、今年からは電子ブック化され配付がありません。

そこで、昨年度から夏休み期間中の学習面の充実のため、夏休み学習教材を購入してもらい、それにきちんと取り組ませることで、1学期とそれまでの学年の復習をし、学力の向上を図ることにしました。購入の趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願いいたします。

(※本学習教材の選定理由は、改めてプリントでお知らせいたします。)



6月の思い出!(デジタルサイネージ)

ICT支援の先生の力をお借りして、6月の行事写真を玄関前の「デジタルサイネージ」で流しています。6月はいのちを見つめる強調月間でもあり、保護者や地域の方々、関係機関の方々のご協力で、豊かな心を育む、たくさんの魅力ある活動を実施することができました。

ご協力ありがとうございました。写真を見つめる子どもたちは、とても嬉しそうでした。



ある授業の風景①「あっ 動いた！」6年理科

6年生が理科で顕微鏡を使い微生物の観察をしていました。今まで学習した生物同士の関わりで食べるものと食べられるものの食物連鎖を学んでいます。その中で6年生が飼育・観察しているメダカ（自然界にいる）は、何を食べているのだろうという疑問から、池や川の水の中には目に見えない小さな生き物がいるに違いない、池の水を顕微鏡で調べてみようとなりました。ピオトープの水をプレパラートに取り、顕微鏡で観察します。「あっ 動いた！」「体が透けている。」大騒ぎになりました。ミジンコ、ケンミジンコ、ワムシ…。名前がわからない生き物もいたようです。



ある授業の風景②「しんぶんとなかよし」2年図工

10日の午後、2年生の教室がにぎやかだったので覗いてみると、図工の単元「しんぶんしとなかよし」の授業の真っ最中でした。新聞紙に体全体でふれながら、思いついたことを試しながらアイデアを広げていくことがねらいです。新聞紙を破いたり、丸めたり、くしゃくしゃにしたり、穴をあけたり、かぶったり、机やイスを覆ったりしながらアイデアを膨らませていました。秘密基地を作ったり、鎧や剣を作ったり、自分でどんどん進めていく子もいれば、友達と協力しながら楽しんでいる子もいました。子供たちは、連鎖反応を起こしながら、いつまでも飽きることなく楽しむことができますね。



校長の独り言⑤

目に見える日常の風景の大切さ

6月28日に、社会人権・同和教育地区別研修会に参加しました。教員だけでなく、いろいろな職種の方々が集まり、人権意識を高めることを目的とした研修会でした。私は、その研修を受け「目に見える日常の風景の大切さ」について、改めて深く考えさせられました。日常の風景というのは、子どもにとっては普段の家庭の営みであり、学校での友達との関わり、その中で出会う大人（親や教師）の考え方、言動でしょうか…。

私は雲仙市国見町の漁師（ノリ養殖）の家に生まれました。男ばかりの三人兄弟（三男）でした。親父は焼酎が大好きで、毎日酒屋に「量り売りの酒」を買いに行くのが私の仕事でした。駄賃が十円貰えたからでした。

ノリ養殖の仕事は8月から4月まで、この期間は家族総出で働いていました。土日、友達が遊ぶ約束をしているのを横目に、学校から帰るとすぐ家の手伝いをしていました。友だちをうらやむこともありましたが、仕方がないこととして受け入れていたように思います。仕事が終わり家に帰ると、ご飯の支度は母親の仕事でした。もちろん片付けもです。男兄弟なので、それは当たり前で、手伝ったことすらありませんでした。洗濯も、掃除も全て母親の仕事でした。親父は店で飲むことはありませんでしたが、たまに漁師仲間が家に遊びに来ることがありました。その時も、酒の肴を準備するのは母親の仕事でした。ノリ養殖の仕事は父親と同じくらい働いているのに…です。食事の世話、掃除、洗濯、その他家事一切が母親（女の人）の仕事でした。

友達と比べ、自分が土日手伝わされることには一人前に理不尽さを感じたのに、同じ仕事をしながら、その上家事一切を母親がすることへの理不尽さには全く気付きもしませんでした。物心ついた頃から、それが我が家の「目に見える日常の風景」だったので、何の疑問も持たず、それが当たり前だと思っていたのです。私は、実家では母親が亡くなるまで、結局家事で何も手伝うことはありませんでした。まあ、やろうにも「何もできない大人」になっていたのですが…。



これが当たり前ではないということに気付いたのは、自分が家庭を持ってからです。でも、小さい時の日常が染みついているのです。不平等さに気付くためには、価値観を埋めるための時間と習慣を変えるたくさんの学びが必要でした。さらに、頭では理解しても、それを自然と自分がするためには、当たり前になるまでのたくさんの学び直しが必要だったのです。（してあげたという考えが根強く支配し、自然と行動できない私がありました。）

たった40～50年前の我が家の「目に見える日常の風景」、みなさんのご家庭はどうでしょうか？子どもは、何の疑問も持たず、それが当たり前で、世間の常識だと学ぶのです。そして、その考えを引き継ぎます。特に男の子がいる家庭は、どんな大人になってほしいかを、もう一度考えたいものです。お母さんが忙しそうにしている時、当たり前料理を、家事を自然と手伝えることは、ある意味勉強より大切なことかもしれません。